

◆主なマーケットの動き

株式	債券	為替
<p>日本株式 (3/15) 日銀が15日まで開いた金融政策決定会合の結果や、北朝鮮が米国との非核化協議の停止を検討しているとの一部報道が重石となる局面もありましたが、111円台後半まで円安が進んだことが好感され、機械や自動車など輸出関連株に採算改善を期待した買いが優勢となりました。また、中国全国人民代表大会（全人代）閉幕会見で減税や社会保険料引き下げの日程を明らかにするなど中国政府による景気刺激策への期待を背景に上海株式市場が上昇したことも投資家心理改善の追い風となり、日経平均株価は3営業日ぶりに反発しました。</p> <p>グローバル株式 (現地3/14) 中国2月鉱工業生産が市場予想を下回ったことや、中国当局による株式投機取り締まり強化への警戒から、上海株式市場が大幅続落となった一方で、英国の合意なきEU（欧州連合）離脱が回避されたほか、ハイテク株主導で前日の米株が上昇した流れを継いで、香港・韓国株式市場が反発するなど、アジア株式市場はまちまちでした。欧州では、前日に英下院が合意なきEU離脱回避を賛成多数で可決したことを好感して、欧州株式市場は総じて上昇しました。米国では、低迷する中国での販売に安定する兆しが見られるとの見方からアップルが上昇したことが好感された一方で、3月中の開催を目指していた米中首脳会談が4月以降にずれ込むと伝わると、通商協議の長期化が嫌気されて、米国株式市場は方向感に乏しい展開となり、まちまちでした。</p>	<p>先進国債券 (現地3/14) 英国のEU離脱を巡り、英下院が合意なきEU離脱回避を賛成多数で可決したことを受けて、投資家心理が改善する中、イタリアやアイルランドなどの欧州周辺国債券利回りは総じて低下（債券価格は上昇）した一方で、独10年物国債利回りが0.08%まで上昇するなど、安全資産とされる中核国債券利回りは総じて上昇しました。米国では、米1月新築住宅販売件数が市場予想に反して減少したことや、米新規失業保険申請件数が市場予想を上回ったことを受けて、米景気減速への警戒から10年物国債利回りが2.61%まで低下する局面もありましたが、英国のEU離脱を巡り、前日に合意なきEU離脱回避が賛成多数で可決されたことに続いて、英下院がEU離脱延期を条件付きで可決したことで投資家心理が改善する中、10年物国債利回りが2.63%まで戻すなど、米国債券利回りは小幅に上昇しました。</p>	<p>ドル円為替レート (現地3/14) 111円台前半で始まった東京時間は、英国の合意なきEU離脱が回避されたことを受けて、投資家心理の改善を背景とする円売りが優勢となったほか、国内輸入企業から実需の円売りも出て、111円台半ばまで円安が進みました。海外では、英下院が合意なきEU離脱回避に続いてEU離脱延期を可決したことを受けて、投資家心理が改善する中、金融政策決定会合を開催中の日銀がさらなる金融緩和に踏み込むとの観測が広がったことで、日米金利差拡大を意識した円売りも見られて、111円台後半まで円安が進みました。</p>

◆基準価額の動き

※以下の表中の「組入れファンドの動き」のうち、「米ドルベース」とは、当該組入れファンドが米ドル建のものです。「為替ヘッジなし」は、当該組入れファンドが円建のもので、為替ヘッジは行っていません。「為替ヘッジ」は、当該組入れファンドが円建でのもので、為替変動の影響を抑えるために為替ヘッジを行っています。一般に、為替ヘッジを行った場合には、ヘッジ・コスト（ヘッジ対象通貨の金利と円金利の差）がかかります。

ぜんぞうシリーズ

ファンドの動き		組入れファンドの動きと組入比率（目標）		
		先進国債券 （為替ヘッジ）	先進国株式 （為替ヘッジなし）*1	新興国株式 （為替ヘッジなし）*1
		↓小幅下落	↑上昇	↑上昇
ぜんぞう 1502、1702、1704、1709、1802 *2	↑上昇	40%	50%	10%
ぜんぞう 1804	↑上昇	45%	46%	9%
ぜんぞう 1807	↑上昇	60%	33%	7%
ぜんぞう 1810	↑小幅上昇	75%	21%	4%
ぜんぞう 1901	変わらず	90%	8%	2%

*1:「為替ヘッジなし」は、現地の株式・債券等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。

※"- "は組入れが無いことを表します。

*2:ファンドによって動きが異なる場合があります。

米ドル/円レート（ニューヨーク）	↑円安
------------------	-----

*3:安定的な債券運用に切り替わっています。

◆基準価額とグラフはこちら

1408	1502	1505	1508	1602	1605	1702	1704
1709	1802	1804	1807	1810	1901		

◆コメント

- 先進国債券市場は小幅下落。先進国株式市場は小幅上昇、新興国株式市場は下落。（現地通貨ベース）
- 「先進国債券」は小幅下落。ドル円為替レートは円安となり、為替の動きを加味した「先進国株式」「新興国株式」は共に上昇。
- 株式比率の高い「ぜんぞう1502、1702、1704、1709、1802」の基準価額は前日比上昇。
- 漸増期間中の「ぜんぞう1804」「ぜんぞう1807」の基準価額は前日比上昇、「ぜんぞう1810」の基準価額は前日比小幅上昇、「ぜんぞう1901」の基準価額は前日比変わらず。
- なお、「ぜんぞう1508、1602」は2018年7月5日に、「ぜんぞう1505、1605」は2018年11月29日に信託終了（繰上償還）、「ぜんぞう1408」は2018年12月10日に信託終了（満期償還）致しました。

しずくシリーズ

組入れファンドの動き			ファンドの動きと基本資産配分		
			海のしずく	森のしずく	星のしずく
			↓小幅下落	変わらず	↑上昇
先進国中短期投資適格債券	為替ヘッジ	変わらず	75%	50%	25%
米国短期ハイ・イールド債券（為替ヘッジあり）	為替ヘッジ	↓小幅下落	25%	25%	8%
先進国好配当株式	為替ヘッジ	↑小幅上昇		25%	25%
先進国株式	為替ヘッジなし*1	↑上昇			25%
新興国株式	為替ヘッジなし*1	↑上昇			10%
米国短期ハイ・イールド債券（為替ヘッジなし）	為替ヘッジなし*1	↑上昇			7%

*1:「為替ヘッジなし」は、現地の株式・債券等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。

米ドル/円レート（ニューヨーク）	↑円安
------------------	-----

◆基準価額とグラフはこちら [海のしずく](#) [森のしずく](#) [星のしずく](#)

- ◆コメント
- 海のしずく 組入れ比率の高い「先進国中短期投資適格債券」が変わらずとなったものの、「米国短期ハイ・イールド債券（為替ヘッジあり）」が小幅下落となったことから、海のしずくの基準価額は前日比小幅下落。
- 森のしずく 「先進国中短期投資適格債券」が変わらず、「米国短期ハイ・イールド債券（為替ヘッジあり）」が小幅下落となったものの、「先進国好配当株式」が小幅上昇となったことから、森のしずくの基準価額は前日比変わらず。
- 星のしずく ドル円為替レートが円安となり、為替の動きを加味した「先進国株式」「新興国株式」が共に上昇したことなどから、星のしずくの基準価額は前日比上昇。

くらだし

組入れファンドの動き			くらだし
配当成長株式	為替ヘッジなし*2	↑小幅上昇	↑小幅上昇

*2:「為替ヘッジなし」は、現地の株式等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。

なお、本ファンドは株式と通貨のカバードコール戦略を採用しています。

米ドル/円レート（ロンドン）	↑円安
----------------	-----

◆基準価額とグラフはこちら [くらだし](#)

- ◆コメント
- ・配当貴族指数が上昇する中、本ファンドの配当成長株式ポートフォリオは変わらず。
 - ・ドル円為替レートは円安となり、組入れファンドが小幅上昇となったことから、くらだしの基準価額は前日比小幅上昇。
 - ・通貨カバードコール戦略はマイナス寄与。
- * 配当貴族指数とは、S&P500配当貴族指数とS&Pグローバル配当貴族指数を1：1の割合で合成したものです。

しゅういつ

ファンドの動き	しゅういつ
日本株式集中投資戦略（マザーファンド）	↑上昇

◆基準価額とグラフはこちら [しゅういつ](#)

- ◆コメント
- ・参考指標であるJPX日経インデックス400が上昇する中、しゅういつの基準価額も前日比上昇。
 - ・個別銘柄では、武田薬品工業、塩野義製薬などの銘柄がプラス寄与、ソニー他1銘柄のみがマイナス寄与。

たんはい

組入れファンドの動き			たんはい有	たんはい無
米国短期ハイ・イールド債券	為替ヘッジ	↓小幅下落	↓小幅下落	
米国短期ハイ・イールド債券	為替ヘッジなし*1	↑上昇		↑上昇

*1:「為替ヘッジなし」は、現地の株式・債券等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。

米ドル/円レート（ロンドン）	↑円安
----------------	-----

◆基準価額とグラフはこちら [たんはい有](#) [たんはい無](#)

- ◆コメント
- ・米国株式市場がまちまちの展開となる中、米国ハイ・イールド債券市場は小幅上昇となったものの、たんはい有の基準価額は前日比小幅下落。
 - ・ドル円為替レートは円安となり、たんはい無の基準価額は前日比上昇。

てつさん

組入れファンドの動き			てつさん
先進国株式	為替ヘッジなし*1	↑上昇	80%
新興国株式	為替ヘッジなし*1	↑上昇	20%

*1:「為替ヘッジなし」は、現地の株式・債券等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。

米ドル/円レート（ニューヨーク）	↑円安
------------------	-----

◆基準価額とグラフはこちら [てつさん](#)

- ◆コメント
- ・先進国株式市場は小幅上昇、新興国株式市場は下落。（現地通貨ベース）
 - ・ドル円為替レートは円安となり、為替の動きを加味した「先進国株式」「新興国株式」が共に上昇したことから、てつさんの基準価額は前日比上昇。

あおぞら投信株式会社からのお知らせ

【ご購入に際しての留意事項】

◆投資信託に係るリスクについて

投資信託は、国内外の株式や公社債等の値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額が変動します。また、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資家の皆さまに帰属します。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」を必ずご覧ください。

<投資信託に係る費用>

◆投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	上限 3.78% （税抜 3.50% ）
換金時手数料	上限 1.08% （税抜 1.00% ）
信託財産留保額	ありません。

◆投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 （信託報酬）	純資産総額に対して 上限年率1.8628% （税込）
その他費用	上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等でご確認ください。

※上記当該手数料等の合計額については、ファンドの保有期間に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

- ・上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。
- ・費用の料率につきましては、あおぞら投信が運用するすべての投資信託のうち、投資家の皆さまにご負担いただく、それぞれの費用における最大の料率を記載しております。
- ・投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等をご覧ください。
- ・投資信託は預金保険または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。投資信託は金融機関の預金と異なり、元金および利息の保証はありません。
- ・投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。
- ・コメントは作成時点における見解であり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の動向や結果を示唆あるいは保証するものではありません。また、個別銘柄を推奨するものではありません。

あおぞら投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2771号
加入協会 一般社団法人 投資信託協会